

山室之内

江口村

參百拾俵者

貳百貳拾六俵壹斗六升者

合五百參拾六俵壹斗六升

右之分宛行者也

天正拾三閏八月十三日

佐々内藏之助印

神通川

舟頭中

〔武家嚴制錄三〕關原御陣中御條目○中略

一舟渡之義、他之備ニ不交、一手越たるべし、夫馬以下同前之事○中略

右條々、若違背之輩於有之者、忽可處罪科者也、仍如件、

慶長五年七月日、

御上洛之時御條目之部

條々○中略

一舟渡山坂において、不混雜様に先次第相越べし、小荷駄は右の方を通すべし、但山坂にては、山

之方江つけて可通之、其所之番の者任差圖、不致混雜可相通之、猥之輩可爲曲事○中略

右條々可相守之、萬一違犯之輩有之者、六人の内、番頭并目付之當番、可言上之、隨科之輕重、或死

罪流罪改易、或可爲過怠者也、

寛永十一年六月十八日